

新しい年に



新年のご挨拶

馬場章夫*

Cornerstone of HANDAI Industry on Campus

新年おめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。このような穏やかなご挨拶を申し上げられる年がずっと続くことを願わずにはおられません。

この数年は本当に激変開始の時でした。世界の中心や方向が変わる実感を持たれた方も多かったと思います。政権が交代した日本も負けずに変わるのでしょうか。そろそろ価値観を変えるべきなのか、それとも、競争的な環境を先鋭化するのか。自分たちで試行錯誤しながら地道に手作りし、その中で成功した例をもとに明確な将来の姿を描く必要があるように思います。

大学の本来のミッションはもちろん人材育成です。いろいろと言われますが、大学においては、育成対象はやはり学生ではないでしょうか。大学において社会との連携や社会貢献が声高に叫ばれていますが、将来十分に活躍できる基礎力を持った人材を社会に送り出すことが求められていると認識しています。

工学研究科は社会との距離が短いことが大きな特徴だと思っています。その近さを利用した人材育成を行いたいと考えています。近年は社会連携も大きくその様式を変えつつあるように感じています。研究だけでなく、教育プロジェクトにもその要素を取り入れようとする動きが活発になっていますが、大学本来のミッション「学生を育てる」を肝に銘じながら進むべきと思っています。

企業と大学の産学連携は、お互いのミッションの

違いを十分に理解したうえで、しかし本気で取り組まないと望む成果は得られないと考えます。4年前に立ち上げた「共同研究講座」はそのための仕組みです。今年はさらに進んだ形の協働で、お互いのミッションを果たせるように模索していきたいと考えています。そのための具体的な動きの一つとして、テクノアライアンス棟をご紹介します。吹田キャンパスの真ん中に全学施設として「テクノアライアンス棟」が今年度に建設され、平成23年4月に運用を開始します。完成予想図のとおり、9階建ての立派な産学連携拠点となるはずですが、阪大は、産学連携を大学の人材育成力強化に利用したいと図っています。企業は阪大に研究や技術開発を委託するのではなく、企業自らが阪大に入り込んだうえで、阪大を役立てていただければと希望しています。阪大内に研究所を作りたい、共同研究講座を設置したい、情報収集拠点を作りたい、などをご検討いただければと存じます。「Industry on Campus」を実現する場所ですので、アライアンス棟のあるべき姿や運営に関して、企業サイドから良いアイデアや要望がありましたら、ぜひともお聞かせいただきたいと思います。

会員の皆様方にとりましても、穏やかでのびやかな新しい年となることを祈念いたしております。



* Akio BABA

1949年1月生
大阪大学工学部応用化学科(1971年)
現在、大阪大学大学院工学研究科 教授
工学博士 有機合成化学
TEL: 06-6879-7384
FAX: 06-6879-7387
E-mail: baba@chem.eng.osaka-u.ac.jp



大阪大学テクノアライアンス棟完成予想図